

「魅力あふれる大学の実現に向けて」

—学生と教職員の『つながり』を強化するために—

平成 21 年 7 月 8 日 TEAM「UNAGIES 支援 2009」

グループテーマ【システムを活用した教職員と学生とのつながりの強化について】

○テーマ設定の背景

今回、討議するテーマを設定するにあたり、大学における様々な問題点の中から特に次の 3 点を抽出した。

- ①複数の職員の学生対応における学生の情報の非共有
- ②学生と教員との意思疎通が図れないことによる学生生活の障害
- ③教員同士のコミュニケーション不足による弊害

以上の問題は、大学に来ない学生、家に引きこもっている学生、講義に出席しない学生を生み出す要因ともなっており、これら悩みを抱えた学生に対するフォローを含めた学生の大学に対する満足度を上げる方策を討議することとして、今回のテーマを設定した。

1. 「つながり」とは？

今回抽出した問題は、学内におけるコミュニケーション不足による弊害から引き起こされた問題であり、特に学生と大学側との意思疎通が図れていないことが大きな要因となっていると考えられる。そこで、これらの問題を解決するために学生と教職員が「つながり」を持つことが重要であるという視点から、解決に向けた方策を検討した。

ここでいう「つながり」とは、教職員と学生とが双方向に情報を交換することによって意志疎通を図ることであるとした。そして「つながり」を持つことで、学生と教職員との距離や溝が埋まり、多種多様な学生支援を実現し、学生にとっての充実したキャンパスライフの提供が可能になると考察した。

2. ICT を活用した「つながり」

既存の ICT を活用した「つながり」としては、以下の 4 つを例示してその「つながり」による効果を考察した。

- ①欠席が多い学生へ教員から学生へメール送信し双方向の情報交換
- ②友達を作りにくい学生の為に、SNS 等を活用した学生同士のコミュニティの開設
- ③講義の内容を理解出来なかった学生の為に、ブログを活用した講義に対する質疑応答を可能としたシステム
- ④Web 上に講義録を掲出するなどの e-learning の活用

これらの ICT を活用した「つながり」について検討を続ける中で、ICT の活用に

よる利便性の向上、ICT 特有の広範な情報提供や時間に拘束されないコミュニケーションの実現などを考察するとともに、ICT では実現できない「つながり」の重要性を再認識することとなった。

3. ICT だけでは達成できない「つながり」＝「RC」

ICT の活用はこれからの大学のシステムにおいて欠かすことのできない技術であるが、ICT による「つながり」について検討する中で、それだけでは達成できない現実の「つながり」について再認識し、それを「RC」と定義することとした。

「RC」とは「Real Communication」の略であるが、単に「現実のコミュニケーション」を指すのではなく、ICT だけでは実現できない教職員と学生との信頼のあるつながりであると考えた。「つながり」を得るためには学生が大学に来ることが最も重要であり、教職員と直接コミュニケーションをとることで信頼のある「つながり」を保持することができるとの視点に立って、「RC」を定義した。

現在、大学でも行われている RC の例として、①入学前の学生に対する大学講義への対応力を養成する入学前セミナーの実施、②講義への対応力を欠いた学生を中心に開催する講義や履修相談の開催、③教員が研究室を開放して面談を行うオフィスアワーの導入——を例示して検討した。

「RC」は教職員と学生とが現実の会話を通して信頼を築き上げ、信頼のある「つながり」を持つことを意味するので、教職員の心の通った学生対応が不可欠である。そのためには日頃の ICT を活用した学生とのコミュニケーションと事務の効率化を実現するとともに、職員自らの質の向上が必要である。また、教員と職員とが相互にコミュニケーションを図り、協調、協働して学生支援に当たる環境整備も不可欠となる。

4. ICT と RC の相互サイクルによるチェック機能

ICT と RC には相互サイクルの関係も期待できる。例えば、RC に参加した学生に対してアンケートを取ることで ICT から RC への結びつきを調査することや、ICT を行う前と後での RC への参加者の増減を確認してその効果を測るなど、ICT の評価を RC で行うとともに、RC の評価を ICT で行うことで互いに評価する仕組みを構築する。これにより ICT と RC の相互サイクルを実現する。

5. 「魅力あふれる大学」の実現

ICT と RC のサイクルを構築し、ICT と RC による「つながり」を実現することは多様な学生支援を可能とする。特に今回定義した「RC」においては①学生のコミュニケーション能力の向上、②社会適合力を育成することによる新たな学士力の創出、③学生が行きたくなる大学への変革——を可能とする。

現在ある ICT を活用しながら RC へつなげることにより、大学職員の目指すべき目的の一つである「魅力あふれる大学」の実現が可能となると考え、今回の考察の結論とした。